

発達障害教育推進センター研修講義

高等学校における 合理的配慮

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
江田 良市



高等学校における合理的配慮の提供に向けて

現在の重要課題～共生社会の形成～

- 共生社会の実現は、様々な人が生き生きと活躍できる社会の実現であり、国民全体にとって有益
- 各分野において、共生社会実現のための取組が進められている
- 教育分野の重要課題は、一人一人に応じた指導や支援（特別支援教育）に加え、障害のある者と障害のない者が可能な限り共に学ぶ仕組み（インクルーシブ教育システム）を構築すること

高等学校における合理的配慮の提供に向けて

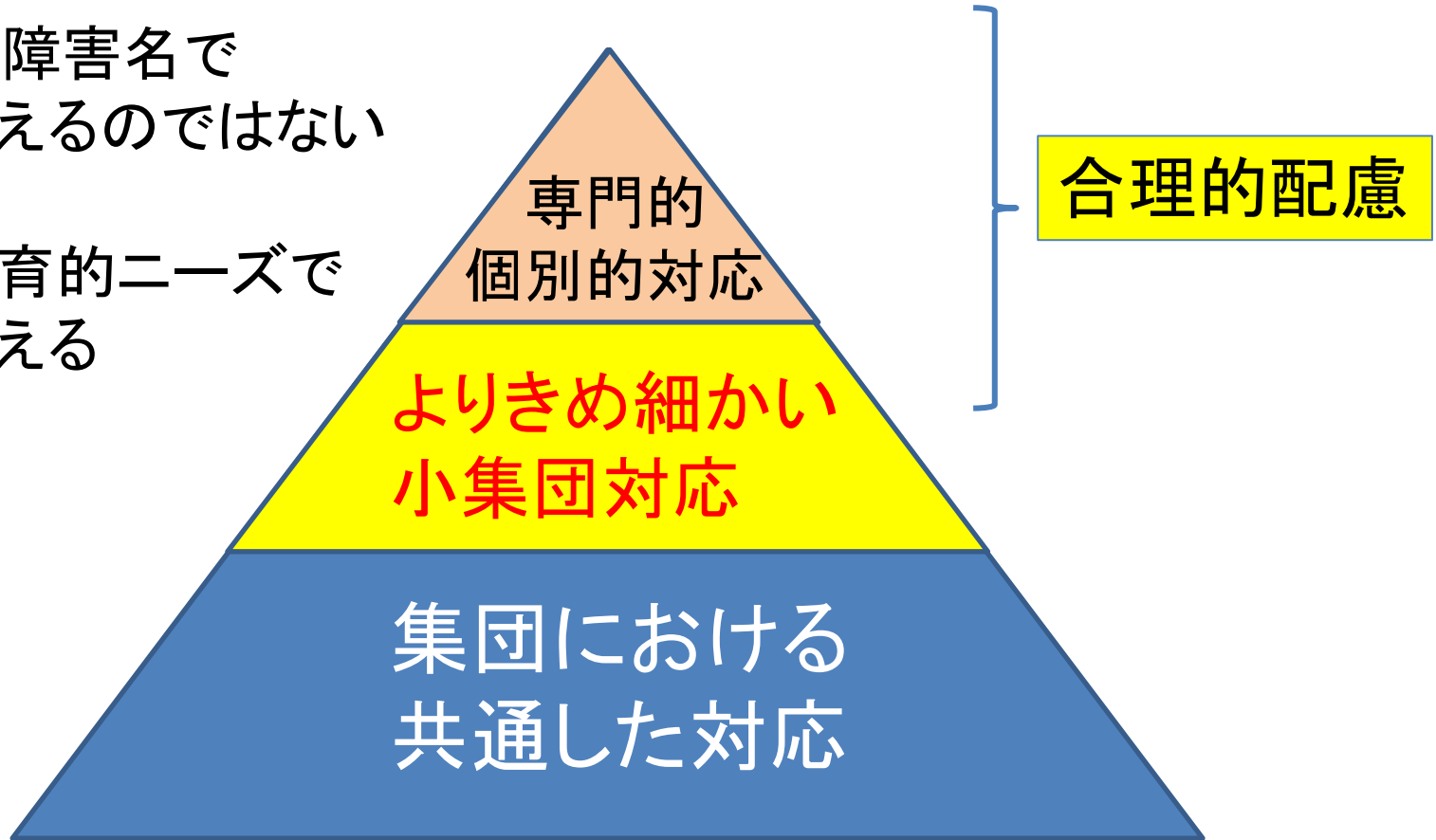
インクルーシブ教育システムの構築に必要な要件

- 障害のある者が一般的な教育制度から排除されないこと
- 障害のある者に対する支援のために必要な教育環境が整備されること(基礎的環境整備)
- 障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を行使するため、個々に必要となる適当な変更・調整(合理的配慮)が提供されること

三層モデルの考え方

診断名や障害名で
対応を変えるのではない

必要な教育的ニーズで
対応を考える



指導・支援のポイント

肯定的な自己理解を育むこと

- ・認めてくれる仲間、支えてくれる大人
- ・安心できる人間関係

自己効力感を育むこと

- ・失敗しても大丈夫、何とかなる経験
- ・相談による問題解決の経験

ストレスにうまく対処する力を育むこと

- ・自分なりの気分転換と癒し
- ・共に過ごせる仲間の存在

発達障害教育推進センター研修講義
「高等学校における発達障害のある生徒の指導・支援」より

高等学校段階における

合理的配慮の例

- 感覚への配慮
- 学習面での配慮
- 心理・社会面での配慮

高等学校段階における

合理的配慮の例

○感覚への配慮

○学習面での配慮

○心理・社会面での配慮

高等学校段階における

合理的配慮の例

○感覚への配慮

Aさんは、人の気配や音に敏感で、学習や生活に支障をきたしています。

合理的配慮の例

○感覚への配慮

Aさんは、人の気配や音に敏感で、学習や生活に支障をきたしています。



推測できるつまずきの要因

- 聴覚が過敏で、感覚刺激に対する耐性が弱い
- 自分の感じていることを言語化することが難しい
- 自分の感じていることを、他者に伝えたいという気持ちが乏しい
等

合理的配慮の例

Aさんは、人の気配や音に敏感で、学習や生活に支障をきたしています。

○担任の先生が行った配慮

- ① 感覚に過敏性があることを認め、本人に辛さがあることを理解し、無理をさせないようにした。
- ② 本人に辛さがあることについて、周囲の仲間や校内の多くの先生方に理解をしてもらう働きかけを行った。
- ③ 感覚の過敏さからくる辛さに関して、Aさん自身が「大きい声は苦手です。」と言えたり、ノイズキャンセリングフォンを使うことができたりするよう、自ら対処できる方法について話し合った。

高等学校段階における

合理的配慮の例

○感覚への配慮

○学習面での配慮

○心理・社会面での配慮



個別的な支援の工夫の実際(例)

領域・内容	具体的な様子	実施した支援策
書く(書字)	文字が乱れたり、プリントやノートの枠に文字が収まらなかったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントの枠を大きくする。 ・テストの解答用紙の枠を大きくする。
書く (ノートテイク)	書くスピードが遅く、板書を写しきれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・板書のポイントとなる箇所に、色をつけ、ノートに写す箇所を限定する。 ・板書をタブレットPCで写真に撮り、後で写したり、確認したりする。
読む (意味理解)	語句の読み、意味理解に困難さがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・電子辞書使用を許可する。 ・板書やプリント、テストの問題用紙などの漢字に振り仮名をつける。
聞く (指示理解)	授業の流れについていけない。集中が途切れる場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡は口頭で伝えると共に、紙に書いて見せる(渡す)。 ・座席の位置を教卓近くにし、個別の声かけができやすくする。
話す (音量調節)	声の大きさのコントロールが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・音量を図示し、声の大きさのレベルを目で見て確認できるようにする。

(独) 国立特別支援教育総合研究所(2014)「高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究—授業を中心とした指導・支援の在り方—」<http://nise.go.jp/cms/resources/content/9719/seika4.pdf>

「解き方」 確認カード

二次方程式の解き方

【公式】2次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \quad \text{にあてはめる}$$

例題1

$$x^2 - 7x + 10 = 0$$

$$x = \frac{-7 \pm \sqrt{7^2 - 4 \times 1 \times 10}}{2 \times 1}$$

←数字をあてはめる

$$x = \frac{-7 \pm \sqrt{49 - 40}}{2}$$

←ルートの中の二乗、
かけ算を計算していく

$$x = \frac{-7 \pm \sqrt{9}}{2}$$

←ルートの中の足し算
引き算を計算していく

$$x = \frac{-7 \pm 3}{2}$$

←可能ならルートの中を
簡単にする

$$x = \frac{-7+3}{2} \quad x = \frac{-7-3}{2}$$

←±を+と-の2つに
分ける

$$x = \frac{-4}{2} \quad x = \frac{-10}{2}$$

←分子を計算する

$$x = \frac{-2}{1} \quad x = \frac{-5}{1}$$

←約分する

$$x = -2 \quad x = -5$$

答え $x = -2, -5$

解き方を
視覚化

個別のヒントカード
として

クラス全体の
板書として
プリントの中で

生徒同士が教え
あうツールとして

支援要請カード

困ったとき、分からないときに
使用するカード

HELP

教えて

?

自分にとって必要な
援助を、自ら得る
手段をもつことは、
必要かつ大切

高等学校段階における

合理的配慮の例

○感覚への配慮

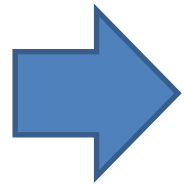
○学習面での配慮

○心理・社会面での配慮



発達障害のある高校生の課題

思春期になっている子どもの 状態像の変化



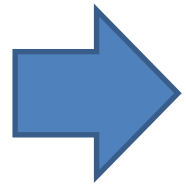
内面に大きな変化を
感じる時期

- ・期待や喜び
- ・不安や心理的不安定さ



発達障害のある高校生の課題

思春期になっている子どもの
状態像の変化



支援ニーズの変化



発達障害のある高校生の課題

例(心理・社会面)

- **自己**の意思を適切に伝えることの難しさ
- 失敗経験の積み重なりによる**意欲**の低下
- 失敗から**立ち直る**ことの難しさ
- 困ったときに助けてくれる**仲間**の不在
- **二次障害**への対応の難しさ



心理・社会面での配慮

インクルDB(インクルーシブ教育システム構築支援データベース)から

インクルDB (インクルーシブ教育システム構築支援データベース)

文字の大きさ
表示色の変更
▶ [アクセシビリティツールを起動](#)
▶ [ツールの使い方](#)

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE
National Institute of Special Needs Education

検索

トップページ ▶ 実践事例データベース ▶ 法令・通知等 ▶ Q&A ▶ 研究報告・リンク ▶ 教育相談情報

トップページ

◎ インクルDBについて

本サイトには、大きく3つのコンテンツがあります。

『[合理的配慮 実践事例データベース](#)』は、文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組まれている実践事例について検索するシステムです。
『[相談コーナー](#)』では、都道府県・市区町村・学校からのインクルーシブ教育システム構築の相談を行っています。
『[関連情報](#)』では、インクルーシブ教育システム構築に関連する様々な情報を掲載しています。

『[合理的配慮 実践事例データベース](#)』

▶ 実践事例データベース

平成27年度実践事例データを40件追加しました。
<実践事例データ 計362件公開> (H30.3.30)
『[事例を閲覧・活用される際の留意事項](#)』
『[実践事例データベースの検索方法](#)』
『[インクルDBリーフレット \(カラー印刷 | 白黒印刷\)](#)』

▶ 相談コーナー

関連情報

▶ 法令・通知・用語等

法令・施策や関連用語の解説など

▶ Q&A

インクルーシブ教育システム構築に関する保護者向けのQ&Aを設けました

▶ 研究報告・リンク

就学に関する情報、教材に関する情報など

<http://inclusive.nise.go.jp/>

○B高等学校3年生に在籍する 発達障害のあるA生徒

- ・相手の気持ちや場面の理解が困難で、コミュニケーションに苦手意識をもっていて、失敗することを嫌がる。
- ・苦手なことが続くと、感情を抑えることができずに、パニックになることもあった。
- ・大学の学生支援センターと連携し、ソーシャルスキルトレーニングを実施した。

【目標】

- ・困ったことや嫌なことがあったときに相談できる

【目標】

- ・困ったことや嫌なことがあったときに相談できる

【取組】

第1回:「今、不安なことは何？」

第2回:「嫌なことはどんなこと？」

第3回:「小論文を書くときに困ることは？」

「面接で心配なことは？」

第4回:「疲れたときのストレス解消法は？」



A生徒は、不安の高さや原因を自分でモニターすることが難しかった



心身の状況について「定時報告」すること

【目標】

- ・困ったことや嫌なことがあったときに相談できる

【取組】

- ・定時報告
- ・就業体験 (放課後等デイサービスでのボランティア)

小さな失敗をくり返しながらも、ちょっとした工夫や人の助けを求め、自分の理解を深めるため



ストレスを少なくして、心理面での安定を保つことや
ストレスの対処法について学ぶことができた



進学先で、移行支援会議を開催し、高等学校での合理的
配慮について情報共有(個別の教育支援計画を活用)

肯定的な自己理解を育むこと

- ・認めてくれる仲間、支えてくれる大人
- ・安心できる人間関係

自己効力感を育むこと

- ・失敗しても大丈夫、何とかなる経験
- ・相談による問題解決の経験

ストレスにうまく対処する力を育むこと

- ・自分なりの気分転換と癒し
- ・共に過ごせる仲間の存在

発達障害教育推進センター研修講義

高等学校における 合理的配慮

終わり

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
江田 良市

